

平成20年度

京都府公立大学法人の業務の実績に関する評価結果

平成21年9月

京都府公立大学法人評価委員会

1 評価の基本方針

(1) 評価の趣旨

京都府公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第28条第1項の規定により、京都府公立大学法人（以下「法人」という。）の平成20年度の業務の実績について評価を行った。

(2) 評価の方針

- ア 大学の教育研究の特性に配慮しつつ、法人の継続的な質的向上に資する。
- イ 中期計画に定めた項目ごとの各年度における具体的な実施状況について調査・分析し、業務の全体について評価を行うことにより、業務運営の改善・充実に資する。
- ウ 評価を通じて、法人の業務運営状況を明らかにし、府民にわかりやすく示す。

(3) 評価の方法

- ア 評価は、法人による自己評価を聴取した上で行った。
- イ 評価は、全体評価及び項目別評価により行った。

(ア) 全体評価

全体評価は、項目別評価の結果を踏まえ、法人の業務の実績全体について評価を行った。

(イ) 項目別評価

項目別評価は、年度計画の小項目及び大項目ごとに行った。

年度計画の小項目ごとの評価は、次のⅣ～Ⅰの4段階により行った。

- | |
|--------------------|
| Ⅳ 年度計画を上回って実施している |
| Ⅲ 年度計画を十分に実施している |
| Ⅱ 年度計画を十分には実施していない |
| Ⅰ 年度計画を実施していない |

年度計画の大項目ごとの評価は、次のS～Dの5段階により行った。

- | |
|-------------------------------|
| S 特筆すべき進捗状況にある(評価委員会が特に認める場合) |
| A 順調に進んでいる(すべてⅣ又はⅢ) |
| B 概ね順調に進んでいる(Ⅳ又はⅢの割合が9割以上) |
| C やや遅れている(Ⅳ又はⅢの割合が9割未満) |
| D 重大な改善事項がある(評価委員会が特に認める場合) |

2 全体評価

(1) 総評

法人は、京都府立医科大学（以下「医科大学」という。）及び京都府立大学（以下「府立大学」という。）の設置及び管理を通して、京都府民に開かれた大学として透明性の高い運営を行うとともに、両大学の教育研究の特性への配慮の下で、百年を超える伝統及び実績の継承や両大学相互の連携を図りながら、京都府における知の拠点として、質の高い教育研究を実施することにより幅広い教養、高度の専門的な知識及び高い倫理観を備えた人材を育成するとともに、大学や地域の多様な主体と協力・連携した研究成果等の活用、附属病院における全人医療の提供等を通じて、京都府民の健康増進及び福祉の向上、京都文化の発信並びに科学・産業の振興に貢献し、もって地域社会はもとより、国内外の発展に寄与することを目的として、平成20年4月1日に発足した。

平成20年度は、法人化初年度に当たり、理事長及び両大学の学長を先頭に教職員が一丸となって、高い目標を掲げ、その達成に向けて努力している姿勢がうかがえる。両大学では、独自の教育研究を推進するとともに、京都工芸繊維大学と3大学で教養教育の共同化を推進するための条件整備等を進め、ヘルスサイエンス系共同大学院の設置に向けて取り組んでいる。医科大学では、医師不足対策として、学生や研修医の府内定着率の向上を積極的に推進され、附属病院の診療実績も当初見込みを上回っているところである。府立大学では、京都や地域の視点を重視した取り組みが行われ、京都政策研究センターの開設の決定や、地域貢献型特別研究により、その成果の還元が進められている。また、理事長のリーダーシップのもと、戦略的・重点的に資源配分をするため、研究費に法人総合戦略枠を創設し、3大学で新たな取り組みが行われるなど、積極的な取組と改革を行っている点は、評価したい。

一方で、府と連携した医師確保対策や医科大学附属病院の患者サービス、府立大学のダイオキシン問題等の課題に対して、更なる取組が求められる。

年度計画406項目中389項目（95.8%）において、「年度計画を上回って実施している」、「年度計画を十分に実施している」と認められ、平成20年度の業務実績を総合的に評価すると、全体として「概ね順調に進んでいる」と認められる。

今後も両大学が、百年を超える歴史と伝統に培われた特色ある教育研究の強みを活かしながら、中期目標・中期計画の達成に向けて、理事長・両大学の学長のリーダーシップの下、教職員が一丸となって着実に業務の推進と成果の達成を図っていくことを期待する。また、取組が十分でないと思われた課題等については点検し、今後の法人の業務改善に活かされることを期待する。

(参 考) 大項目別評価一覧表

大項目 \ 評定	S 特筆すべき進捗状況 にある	A 順調に進んでいる	B 概ね順調に進んで いる	C やや遅れている	D 重大な改善事項 がある
教育研究等の質の 向上に関する事項			○		
業務運営の改善等 に関する事項			○		
財務内容の改善に 関する事項			○		
自己点検・評価並 びに情報の提供に 関する事項				○	
その他運営に関す る重要事項			○		

(2) 特筆すべき事項及び課題となる事項等

(教育)

【医科大学】

- ・ 地域医療の現状を理解できるように、医学科・看護学科生等120名が地域の医療を支える府北中部の基幹病院等を訪問し、地域医療の仕組みや各地域の保健・医療・福祉等の実情を学ぶ地域滞在実習等を実施されている。
- ・ 21年2月実施の看護師・保健師・助産師国家試験において受験者全員の合格を達成された。

【府立大学】

- ・ 京都や地域の視点を重視した様々な取組が行われ、その成果の地域への還元が積極的に進められている。
- ・ 学芸員資格取得100%の実績を維持された。

【3大学連携】

- ・ 医科大学、府立大学、京都工芸繊維大学の3大学が連携して、教養教育の共同化を推進するため、共同カリキュラムの中の授業の一形態として医科大学と府立大学の共同実施科目の設置を決定し、また、3大学の定期試験時期の統一や医科大学医学科において単位互換科目を卒業単位認定する等、学生が受講しやすくするための条件整備を進め、21年度は162名の出願数となった。(20年度13名の出願)
- ・ ヘルスサイエンス系共同大学院の設置に向けて積極的に取り組まれている。

(研究)

- ・ 科学研究費を含む外部資金申請を目標の教員1人1件以上申請実現に向け、更なる取組を今後期待したい。

【医科大学】

- ・ がん診療拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院として高度先進医療に取り組まれている。

【府立大学】

- ・ 地域貢献型特別研究等において、より一層地域に根ざした研究を推進されている。

【3大学連携】

- ・ 21年度のグローバルCOEへの3大学共同申請（不採択）、戦略的大学支援事業への京都薬科大学を含めた4大学共同申請（採択）など、様々な取組が行われている。

(地域貢献)

【医科大学】

- ・ 地域間の診療機能の集約化等をにらんだ医師配置等につながるよう、府や関係機関との調整機能を医療センターに付加するよう、更なる取組を今後期待したい。
- ・ 学生の府内定着率は、医学科61%（計画60%以上）、看護学科74%（同65%以上）であり、計画を上回っており、府内定着率を一層向上させるため、平成22年度入試から、看護学科の推薦入学定員を増員すべく学内手続きが行われている。さらに、医師として最初に勤務する初期臨床研

修後の研修医の府内定着率は76.6%（同70%以上）であり、計画を上回っている。

【府立大学】

- ・ シンクタンク機能の強化と行政職員等の能力向上を図るため、京都政策研究センターの平成21年度開設に向けて、準備作業を進められるとともに、京都府内の幼稚園や小中高校と連携して様々な取組を展開されている。

（医療への貢献・医科大学附属病院）

- ・ 病院診療収入見込みは、189億5千7百万円であったが、新外来棟の建設や移転を行いながらも、189億6千9百万円を確保し、1千2百万円見込みを上回っている。
- ・ 「診療のご案内」を作成し、関係医療機関との連携強化を図り、新規紹介患者の受入を前年比1.3倍と大幅な増加が図られた。
- ・ 診療現場において、カルテ情報の患者との共有について推進するとともに、電子カルテシステムを活用した地域医療機関との画像情報の共有、患者情報やオンライン紹介等を行う地域医療連携システムを開発し、地域医療連携の充実強化を進められている。
- ・ 患者の満足度調査結果は、入院は79.0%（計画85%以上）、外来は、新外来棟への移転に伴い患者導線が長くなったことも影響し64.5%（同75%以上）、また、医薬品や医療材料は、購入価格の低減に努められてはいるが、医薬材料費比率は37.6%（同36.4%以下）となっており、今後更なる取組を期待したい。

（効果的・効率的な法人運営）

- ・ 理事長のリーダーシップのもと、戦略的・重点的に資源配分が実施できる仕組みを構築するため、平成21年度予算の研究費に法人総合戦略枠を創設し、京都工芸繊維大学とともに、共同研究の公募も行われている。
- ・ 法人本部職員の大半を両大学職員の兼務で補うことにより、大学の日常業務に根ざした法人運営を目指す組織を構築するとともに、給与・財務事務については、専用システムを導入し、本部集約化を行なわれている。

（3）評価委員会コメント

- ・ 府立医科大学においては、府民の命を守るため、府と連携して医師確保困難地域はもとより府内における医師確保について、より一層努力されるよう期待したい。
- ・ 府立大学において想定外の実験結果によるダイオキシンの排出について、直ちに対策を講じたものの、非常に残念であり、今後このようなことが起こらないよう取り組まれることを期待したい。
- ・ 業務実績報告書には、年度計画について、どのように実施されたのか具体性に欠く表現や内容を理解することが難しいと感じられる表現が見受けられる。今後は、府民への説明責任を果たすため、計画の事項に沿って、その実施状況等をできる限り簡潔・明瞭にわかりやすくする工夫をしていただきたい。

3 項目別評価

(1) 教育研究等の質の向上に関する事項

評 価	B 概ね順調に進んでいる
-----	--------------

「教育研究等の質の向上に関する事項」に関する項目は、教育研究の特性に配慮し、事業の外形的・客観的な進捗状況についての評価を行った。

(小項目評価：ア～オの計)

評 価	IV	III	II	I	計
項目数	37	274	12	0	323

年度計画に記載の323項目中311項目がIV（年度計画を上回って実施している）又はIII（年度計画を十分に実施している）に該当することから、大項目評価としては、B評価（概ね順調に進んでいる）と認められる。

なお、本項目は、年度計画数が多く、内容も幅広いことから、「ア 教育等に関する目標」、「イ 研究に関する目標」、「ウ 地域貢献に関する目標」、「エ 医科大学附属病院に関する目標」及び「オ 国際交流に関する目標」に分類し、集計を行う。

ア 教育等に関する目標

(小項目評価)

評 価	IV	III	II	I	計
項目数	15	152	5	0	172

平成20年度の実績のうち、評価できる項目（IV）又は課題となる項目（II）の主なものを記載する。（以下同じ。）

なお、() 内の番号は、業務実績報告書の小項目評価の番号

(ア) 評価できる項目

・(33) 教育課程（専門教育）【府大】

公共政策入門Ⅰ・Ⅱの受講生が京都府の「政策のタマゴ」等の事業に参加し、府庁へのヒアリング調査や政策提言など、政策課題解決の実習等の機会を積極的に提供されている。

・(46) 教育課程（3大学連携）

教養教育の共同化に向け、単位互換科目数の増加や共同実施科目の設置、また、試験時期の統一や単位互換科目の卒業単位認定などの受講しやすい条件整備を着実に進められている。

- ・(74) 教育課程（大学院・3大学連携）
ヘルスサイエンス系共同大学院の設置に向けて、既存大学院との連携や、企業関係者を招いて共同大学院フォーラムを開催するなど、積極的に取り組まれている。
- ・(91) 教育方法【医大】
受験手続き説明会、個別相談、模擬試験等きめ細かい学習支援を行い、平成21年2月の看護師・保健師・助産師国家試験は、受験者全員の合格（100%）を達成されている。
- ・(106) 教育方法（学部）【医大】
共同カリキュラムの実施について検討等を行い、さらに医学科において3大学の単位互換科目を卒業単位に認定する等、学生が単位互換制度を受講しやすい条件整備を積極的に進められている。
- ・(161) 学生生活に対する支援【府大】
障害のある学生には、ノートテイク等による支援や意見等の聴取に努め、また、視覚障害のある学生の入学を受けて、点訳機器の整備等を行うなど、きめ細かく対応されている。

(イ) 課題となる項目

- ・(2) 入学者受入れ【府大】
研究科(専攻)ごとのアドミッションポリシーの明確化は達成できており、20年度は遅れたが、今後は速やかなホームページ等による公表を期待したい。
- ・(118) 教育方法（大学院）【府大】
海外の既協定先大学との単位互換の可能性等について聞き取りを行われているが、その可能性を検討するための現状分析がやや遅れており、今後迅速に行われることを期待したい。
- ・(157) 学生生活に対する支援【医大】
学生の心身の健康相談体制を充実するため、クラス担任以外にハラスメント相談員を設けられているが、今後は定期的なハラスメント防止委員会の開催に期待したい。

イ 研究に関する目標

(小項目評価)

評価	IV	III	II	I	計		
項目数	5	4	4	3	0	5	2

(ア) 評価できる項目

- ・(193) 目指すべき研究の方向・水準（研究内容等）
文部科学省の戦略的大学連携支援事業に京都薬科大学を含む4大学で採択され、また、3

大学連携でグローバルCOEを申請しており、大型研究資金獲得に積極的に取り組まれている。

・(218) 研究環境・支援体制の整備

知的財産に関する基本方針を明確にするために、知的財産ポリシーさらに利益相反ポリシーを策定されている。

・(224) 研究活動の評価【府大】

研究費配分の枠組みについて、地域貢献型特別研究で3,000万円を確保し21件採択、また特徴的・先進的研究分野に重点配分する制度を創設し1,500万円を確保し、実施要領を策定されている。

(イ) 課題となる項目

・(179) 目指すべき研究の方向・水準【府大】

「福祉社会を目指し公共政策を拓く」という学部・研究科の理念の実現を目指した共同研究体制の構築等の議論に止まらず、具体的な共同研究体制の確立に向けた検討に期待したい。

・(191) 目指すべき研究の方向・水準

各教員は外部資金申請を1件以上行う計画に対して、医科大学は、教員325人中274人、府立大学は、教員158人中137人の申請であり、目標には及ばず今後期待したい。

ウ 地域貢献に関する目標

(小項目評価)

評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数	7	31	2	0	40

(ア) 評価できる項目

・(246) 行政等との連携【府大】

京都政策研究センターの平成21年度開設に向けて、学内的な組織等の整備をはじめ、具体的な準備作業を進められている。

・(253) 教育機関との連携【府大】

京都府内の数多くの幼稚園、小学校、府民に対し、学生主導の食育、健康教室を開催し、学生の栄養士の資質向上を積極的に果たされている。

・(261) 医療を通じた地域貢献【医大】

学生の府内定着率は医学科61%（計画60%以上）、看護学科74%（同65%以上）で計画を上回っており、さらに看護学科の推薦入学定員を増員し、府内定着率の向上の取組みを進め

られている。

・(262) 医療を通じた地域貢献【医大】

医師として最初に勤務する初期臨床研修後の研修医の府内定着率は76.6%(計画70%以上)であり、計画を大幅に上回っている。

(イ) 課題となる項目

・(239) 産学公連携【府大】

地域連携センターのリーフレットやシーズ集の作成が遅れており、早期の作成に期待したい。

・(257) 医療を通じた地域貢献【医大】

府や関係機関との調整機能を医療センターに付加することについて、今後十分具体的な検討に期待したい。

エ 医科大学附属病院に関する目標

(小項目評価)

評価	IV	III	II	I	計
項目数	7	38	2	0	47

(ア) 評価できる項目

・(289) 地域医療への貢献

「診療のご案内」の作成・配布等により医療機関との連携強化を図り、新規紹介患者の受入を前年比1.3倍と大幅に増加されている。

・(293) 地域医療への貢献

患者紹介率が43.0%(計画41%以上)であり、計画を上回って実施されている。

・(303) 政策医療の実施

一類感染症を始めとする感染症患者受入を想定して診療体制等を整備し、さらに、「疾病別マニュアル」を作成して入院患者受入体制を整備されている。

・(309) 病院運営体制の強化と健全な経営の推進

各診療科等の協力により、院外処方せん発行率は、86.7%(平成19年度84.4%)に向上している。

(イ) 課題となる項目

・(280) 医療サービスの向上

患者の満足度調査結果は、新外来棟の建設や移転があったことにより、入院は79.0%（計画85%以上）、外来は64.5%（同75%以上）で計画を下回っている。外来棟建設等は想定されていた事態であり、今後は患者ニーズや諸課題についての院内周知を十分行い、患者満足度を高める対応について期待したい。

・(311) 病院運営体制の強化と健全な経営の推進

医薬品や医療材料は購入価格の低減に努められたが、医薬材料費比率は37.6%（計画36.4%以下）であり、計画を達成できておらず今後に期待したい。

オ 国際交流に関する目標

(小項目評価)

評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数	3	9	0	0	12

(ア) 評価できる項目

・(316) 国際交流【府大】

専任の嘱託職員を採用し、海外大学からの研究者来校等への対応や海外機関への情報発信を行われ、入学希望学生の渡航サポートのため、国際交流の対応窓口を開設されている。

・(321) 国際交流

医科大学では、オクラホマ大学と国際学術交流協定を締結され、府立大学では、京都府国際センターとの公開講座開催や、京都府の国際交流施策の検討に参画されるなど、計画を上回った取組みをされている。

(イ) 課題となる項目

なし

(2) 業務運営の改善等に関する事項

評 価	B 概ね順調に進んでいる
-----	--------------

(小項目評価)

評 価	IV	III	II	I	計
項目数	3	26	2	0	31

年度計画に記載の31項目中29項目がⅣ（年度計画を上回って実施している）又はⅢ（年度計画を十分に実施している）に該当することから、大項目評価としては、B評価（概ね順調に進んでいる）と認められる。

(ア) 評価できる項目

- ・(326) 運営体制の改善
理事長のリーダーシップのもと、戦略的・重点的に資源配分が実施できる仕組みを構築するため、研究費に法人総合戦略枠を創設されている。
- ・(335) 運営体制の改善
大学運営の点検・検証を行うため、京都府公立大学法人内部監査要綱を策定し、内部監査体制を整備されている。

(イ) 課題となる項目

- ・(351) 事務等の効率化
人事給与、福利厚生、経理事務等について、事務改善の会議で、業務の拾い出し、対応策、実施に係る課題等を議論されているが、具体化には至っておらず、今後は事務の効率化につながるような具体策のとりまとめ、実施を期待したい。

(3) 財務内容の改善に関する事項

評 価	B 概ね順調に進んでいる
-----	--------------

(小項目評価)

評 価	IV	III	II	I	計
項目数	1	16	1	0	18

年度計画に記載の18項目中17項目がⅣ（年度計画を上回って実施している）又はⅢ（年度計画

を十分に実施している)に該当することから、大項目評価としては、B評価(概ね順調に進んでいる)と認められる。

(ア) 評価できる項目

- ・(358) 学生納付金・病院使用料等

初診時加算料について、近隣の大学病院や特定機能病院との均衡を考慮し、平成21年4月から引き上げることとされている。

(イ) 課題となる項目

- ・(355) 財務内容の改善

既存の収入源の確保に努めるなどされているが、効率的・効果的な大学運営ができるよう他大学等の状況調査の実施には至っておらず、今後を期待したい。

(4) 教育研究及び組織運営の状況の自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

評 価	C やや遅れている
-----	-----------

(小項目評価)

評 価	IV	III	II	I	計
項目数	0	8	1	0	9

年度計画に記載の9項目中8項目がIV(年度計画を上回って実施している)又はIII(年度計画を十分に実施している)に該当するが、1項目がII(年度計画を十分には実施していない)なので、大項目評価としては、C評価(やや遅れている)と認められるが、1項目のみがIIであり、21年度以降の改善に期待したい。

(ア) 評価できる項目

なし

(イ) 課題となる項目

- ・(375) 評価の充実【医大】

平成22年度の(財)日本医療機能評価機構の病院機能評価の継続認定取得に向けて、自己点検・評価の実施や受審準備委員会の設置等の準備について、適正な評価が得られるよう十分余裕を持って着実に進められることを期待したい。

(5) その他運営に関する重要事項

評 価	B 概ね順調に進んでいる
-----	--------------

(小項目評価)

評 価	IV	III	II	I	計
項目数	0	24	1	0	25

年度計画に記載の25項目中24項目がⅣ（年度計画を上回って実施している）又はⅢ（年度計画を十分に実施している）に該当することから、大項目評価としては、B評価（概ね順調に進んでいる）と認められる。

(ア) 評価できる項目

なし

(イ) 課題となる項目

・(398) 環境への配慮【医大】

空調設備の改修による省エネ化やエアコン設定温度の見直し等の取組みが行われているが、外来棟1期棟の完成に伴う床面積の増加により、電力負荷の軽減には至っておらず、大学の社会的責任を果たすためにも、今後格段の取組みを進めることを期待したい。